

少人数学級 さいたま市、 足並みそろえず

仙台市は小3で実施 群馬県全小中では35人学級

埼玉県は、過日の文科省による学級定数見直しを新年度から順次進めていくという方針を受け、

せでの発表が、市ではなされませんでした。

さらに、2月議会における「小学校3年生の35人学級導入」についての教育長答弁は信じられないもので、「国においては、小学校3年生は、令和4年度から実施することとしているので、本市においても国のスケジュールにあわせる」というのです。一体どういうことなのでしょう。

全国よりも一歩進んだ「小学校3年生の学級定数35人」を打ち出しました。施設の問題等で、すべての小学校が適用されるところは限りませんが、全国の中では進んだ施策として評価されています。

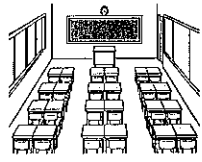
現段階では、さいたま市は政令市になる前から少人数学級の趣旨を尊重して、県と同様に小学校2年生にも35人学級を適用し、さらに中学校1年生にも「38人学級」を適用してきました。従って政令市ではあっても基本的に埼玉県と教育施策については足並みをそろえることが多かったため、今回の3年生適用も県と同様に進めるものかと思っていました。しかし県の公式発表に合わ

る「据え置き」は明らかに先の回答とは矛盾しています。

中学校1年生の38人学級についても、市教委は過去の議会答弁で、「中1ギャップ解消のための効果につきましては、少人数学級編制を行うことで1学級当たりの生徒数が少なくなり、生徒一人一人に目が届くようになり、きめ細やかな支援も可能となります。このことから中1ギャップ解消に一定の効果が期待できると考えております。」と答えています。

状況によって時には県に合わせたり、時には国に合わせたり、逆にさいたま市だけが単独プレーに走ったり、この一貫しない姿勢は何なのでしょう。今回、埼玉県で行っていることになぜ、足並みをそろえないのでしょうか。「学級編制の弾力的運用」が、なぜできないのでしょうか。

さらに、直近で伝わったニュースによると、同じ政令市の仙台市が、埼玉県と同様に小3の35人学級を導入する



ことになったそうです。加えて、お隣の群馬県ではさらに踏み込んで、小・中・高生が35人学級(小1・2は30人)の導入を検討しているとのこと。

国の方針に關しても教生田文科相は、学級編制の引

核兵器禁止条約が発効 問われる日本の姿勢

1月22日、核兵器を国際法上違法とする核兵器禁止条約が正式に発効しました。この条約は核兵器の使用はもとより、保有、製造、開発、実験、

移譲、核兵器による威嚇まで、全てを禁じる史上初めての画期的な条約です。国連で拒否権を持つ常任理事国(米露中印)で核保有国でもある5大

国の厳しい反対がある中で、条約発効へと導いたのはノーベル平和賞を受賞したNGO核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)や「核なき世界」と国内内外で訴えて続けてきた広島・長崎の被爆者の尽力でした。「うれしくてたまらない。諦めなくて良かった。」と

き下げを求める理由について、「新たな感染症対策のため、現状の教室の広さの中で身体的距離を確保することがまず必要」と説明し、「令和の時代の新しい学校の姿として、私としては30人学級を目指すべきだと考

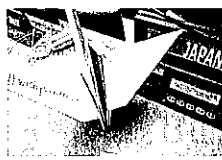
ります。人類が今日直面する危機は、パンデミック(感染症の世界的大流行)、気候変動に伴う様々な災害、食糧危機、資源紛争ですが、核兵器は何の役にも立ちません。膨大な資金を食いつぶす無用の長物であるだけでなく、一歩間違えれば全ての生物を死滅させ、地球そのものを破壊させる恐ろしいものです。そんな核兵器に安全保障を委ねることとは全く無意味なことです。しかし、米国の「核の傘」に頼る日本は、条約に参加することを頑なに拒絶しています。菅首相は国会で、「条約に署名する考えはない。」と

明言し、一年以内に開かれる条約締結国会議のオプザーバー参加にも慎重な姿勢を示しました。悲しいことに、世界で

唯一の被爆国である日本は、核兵器禁止条約の成立をめざしていた交渉会議に参加しませんでした。日本政府の空席に「YOU WERE HERE」(あなたにいてほしかった)と書かれた折り鶴が置かれていたことは、あまりにも有名です。またしても『ヒバクシャ』の熱い思いを踏みにじるのでしょうか。日本政府は直ちに核政策を転換し、速やかに条約を批准して核なき世界への実現に向けて、その先頭に立つべきです。

今、核廃絶・世界平和に向けた姿勢を厳しく問われています。

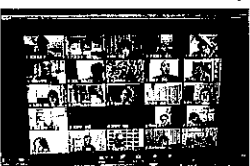
おける「主体的・対話的で深い学び」が重要になる段階です。不登校の子どもたちへのケアも必要です。35人学級の意義を改めて確認し、今回のさいたま市の「後退」を見直すことを強く訴えます。



リモートで 代議員会成功

定例の「さいたま市教組代議員会議」を今回はリモートで行いました。コロナ禍においても、組合としての活動を審議する場は重要で、一堂に会することができない今、ZOOMによるリモート会議は大変有効です。また、今回ZOOMの「ブレイクアウトセッション機能」を利用して、グループ討議を行い、職場交流をすることもできました。インターネット上ではあっても生の声を出し合っ

て交流し、有意義な会議になりました。



新年号クロスワードパズルの答え

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60

当選者
山下裕司さん
鳴村学美さん
笠原里菜さん
図書券をお送りします